上北島花畑遺跡

福岡県筑後市大字上北島所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第28集

2000

筑後市教育委員会

上北島花畑遺跡（かみきたじまはなばたけ）

上北島花畑遺跡第2次調査

2000

筑後市教育委員会

序

筑後市大字上北島には、昭和44年度に調査された弥生時代の狐塚遺跡をはじめ、数多くの遺跡が点在しています。

今回、ここに報告します上北島花畑遺跡はその中の一つで、平成11年度に実施された倉庫建築に伴う発掘調査の記録であります。調査の結果、弥生時代の溝や中世から近世にかけての流路などが確認され、多くの遺物が出土しました。こうした成果を挙げることができましたのも、悪天候のなか連日発掘調査に参加されました作業員や関係者の方々のご協力の賜と思っております。

最後に、本書が文化財保護の一助として広く活用していただければ幸いであります。

平成12年3月

筑後市教育委員会

教育長　牟田口和良

例　言

1.本書は倉庫建築に伴い、カネライト株式会社の委託を受けて筑後市教育委員会が平成11年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2.発掘調査の組織ならびに整理作業参加者はⅠ.調査経過と組織に掲載した。

3.発掘調査は小林勇作が担当し、上村英士、柴田剛、立石真二の協力を得た。遺構の実測は上村、立石、奥村太郎、小林、遺構の写真撮影は小林が担当した。

4.遺構の実測には国土調査法第Ⅱ座標系を利用したため、本書に示される方位はすべてG.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度などはこれを基準としたものである。

5.遺物の実測及び図版の浄書は平塚あけみ、遺物の写真撮影は小林が行った。

6.本書に使用した遺構表示は下記の略号による。

SD—溝・流路　　SK—土壙　　SP—ピット　　SX—不明遺構

7.本書に掲載した地図（Fig.1）は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したもの（承認番号　平12九複、第58号）、本書に掲載した写真（Fig.8）は、建設省国土地理院長の承認を得て、米軍撮影の空中写真を掲載したもの（承認番号　平12九複、第59号）である。

8.本書の執筆・編集は小林が担当した。

目　次

Ⅰ.調査経過と組織 …… 1

Ⅱ.位置と環境 …… 2

Ⅲ.調査の概要 …… 3

（1）検出遺構 …… 3

（2）出土遺物 …… 7

Ⅳ.まとめ …… 10

Ⅰ.調査経過と組織

今回報告する上北島花畑遺跡は、福岡県筑後市大字上北島字花畑に所在する。古くから米や麦を中心とした稲作農耕が盛んに行われてきた地区で、近年は住宅などの宅地開発が増加傾向にある。

発掘調査に至るまでの経過は、当初、カネライト株式会社から開発予定地の埋蔵文化財の取り扱いについて筑後市教育委員会に照会があり、これにより開発関係者との協議を重ね、遺跡の確認調査を実施した。確認調査の結果をもとに更に協議を行い、掘削の及ぶ2,411㎡を発掘調査の対象とし、実施することになった。

発掘調査は、平成11年7月28日～同年9月30日の間実施し、図面や写真等の整理作業及び報告書作成については筑後市文化財整理室において行った。

調査組織

1）発掘調査及び整理作業

総括	教育長	牟田口和良
	教育部長	下川　雅晴
庶務	社会教育課長	庄村　國義
	文化係長	田中　僚一
	文化係	永見　秀徳
		小林　勇作（調査担当）
		上村　英士
		柴田　　剛（嘱　託）
		立石　真二（　〃　）

2）発掘調査作業員

地元有志

3）整理作業参加者（順不同、敬称略）

平塚あけみ（整理補助員）

野間口靖子、野口晴香、馬場敦子、湯川琴美、奥村太郎

なお、調査及び報告書作成に際しては、以下の方々にご指導、ご教示を賜り、記して感謝の意を表したい。

小田和利（福岡県教育庁）、坂井義哉（大牟田市教育委員会）

Ⅱ.位置と環境

調査地は筑後市大字上北島字花畑1200―3番地に所在する。

筑後市は福岡県の南部、筑後平野のほぼ中央部にあり、北部の久留米市をはじめ、八女市、大川市、三潴町、広川町、大木町、瀬高町に隣接する。地形は、北東部に八女丘陵から派生した標高10～20mの段丘が広がり、南部は県下有数の水田地帯が広がる。

上北島花畑遺跡は筑後市のほぼ中央部に位置し、標高8.9m前後の低位段丘上にある。これまでの発掘調査などによって、市内には集落跡などの遺跡が数多く分布していることが明らかで、当遺跡の周辺からも主要な遺跡が確認されている。

当遺跡から北東へ約200mの所には弥生時代後期の住居跡が確認された狐塚遺跡があり、北西へ約500mの所では中世の館跡とされる下北島櫛引遺跡がある。更に、南約100mの場所からは、今年度調査した上北島塚ノ本遺跡があり、弥生時代～中世にかけての遺跡であることが確認された。

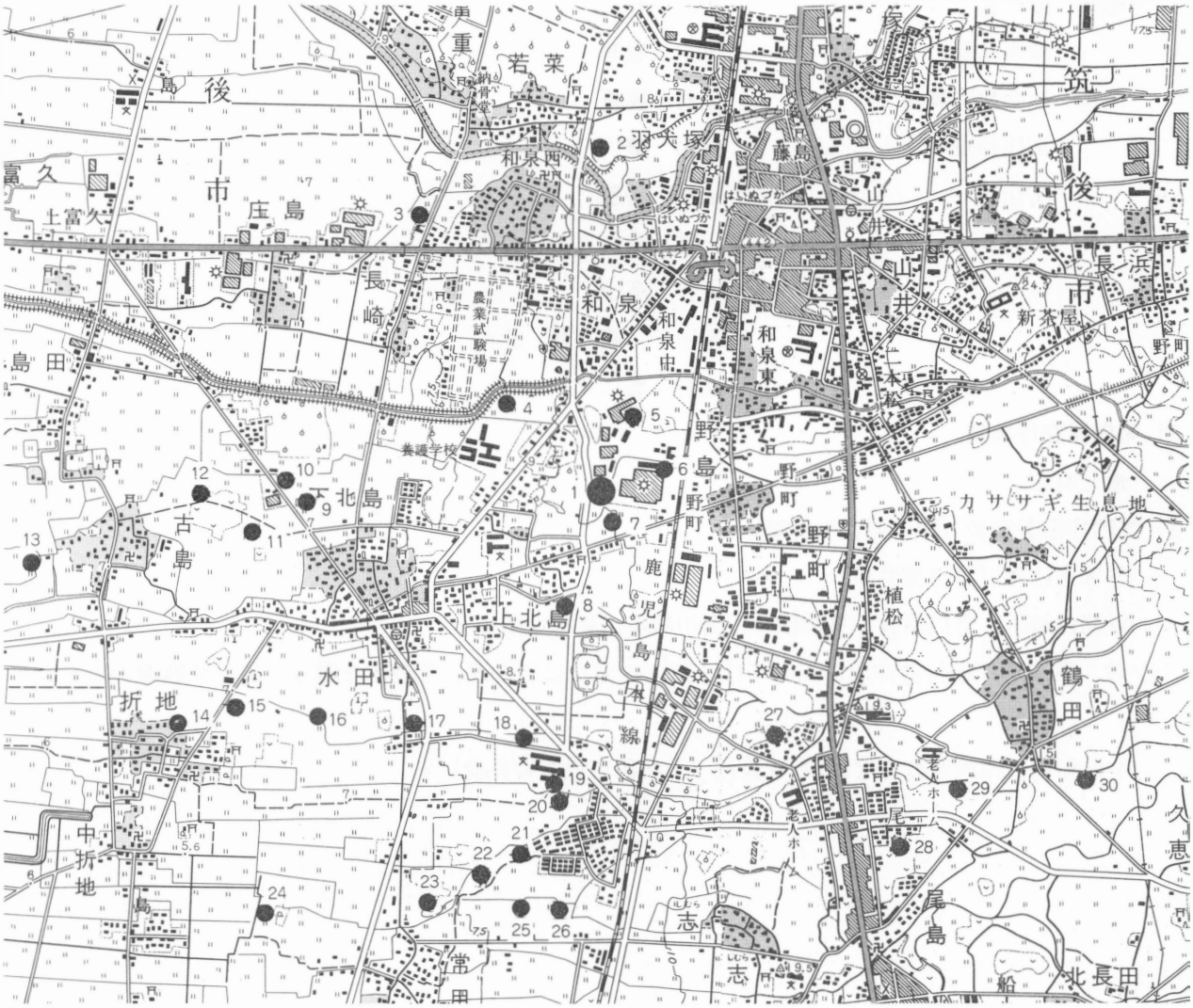


Fig.1　周辺遺跡分布図（1/25,000）

1.上北島花畑遺跡　2.若菜森坊遺跡　3.長崎坊田遺跡　4.下北島櫛引遺跡　5.井原口遺跡　6.狐塚遺跡　7.上北島塚ノ本遺跡
8.上北島前田遺跡　9.下北島久デ遺跡　10.下北島久清遺跡　11.下北島榎崎遺跡　12.古島榎崎遺跡　13.古島島相遺跡　14.折地長間寺遺跡
15.水田伊勢ノ脇遺跡　16.水田正吹遺跡　17.水田下桜町遺跡　18.水田杉ノ元遺跡　19.水田山伏遺跡　20.水田下仁良葉遺跡　21.常用ニラハ遺跡
22.常用日田行遺跡　23.常用長田遺跡　24.梅島遺跡　25.常用相割遺跡　26.常用野々下遺跡　27.裏山遺跡　28.鶴田中市ノ塚遺跡
29.鶴田岸添遺跡　30.鶴田栖原遺跡

Ⅲ.調査の概要

(1) 検出遺構

当調査区から検出した遺構は溝（SD1・2・5・6・7）、土壙（SK3・8・9）、不明遺構（SX4）、ピット（SP13）などで、遺構面はかなりの削平を受けていて、地山は黄褐色粘質土であった。

溝

SD1

調査区の東側から検出した南北溝である。溝の東部は調査区外に広がるため幅は不明であるが、推定幅11m程度の流路であった可能性がある。溝の北部及び南部は調査区外に延び、長さは約40m分を検出した。溝底は凹凸が著しく不安定で、埋土は黒茶色粘質土を基調とした自然堆積による埋没であったこ

Fig.2　上北島花畑遺跡（第2次調査）調査地点位置図（1/2,500）

とが考えられる。遺物は各層から散在的に認め、弥生土器（壺）、須恵器（坏・鉢・甕・片）、土師器（皿・坏・蓋・壺・片）、瓦器（椀）、青磁（碗）、陶器（片）、石製品（砥石・二次加工品）が出土した。

SD2

調査区のほぼ中央部から検出した東西溝で、長さ約32m分を検出した。溝の東端はSD1に切られ、西端はSX4に切られるが、SD1・SX4の下位には溝が残存していた。断面形はほぼV字状を呈し、埋土は黒茶色土を基調とする。出土遺物は弥生土器（片）、土師器（高坏・片）、石製品（石鏃・砥石・二次加工品）を認めた。

SD5

調査区の東側をほぼ直線上に延びる南北溝で、長さ約50m分を確認した。溝の北端はSD1に切られるが、SD1の溝底からは残存した溝を検出している。溝の南端は削平によって消滅し、断面形はほぼU字状を呈する。埋土は暗黒茶色砂質土の単一層で、出土遺物は皆無である。

SD6

調査区の南部からやや蛇行した南北溝を確認した。長さ約50mを検出し、断面形はほぼU字状を呈する。埋土は黒灰色土を基調とし、溝の南端は削平によって消滅する。出土遺物は皆無である。

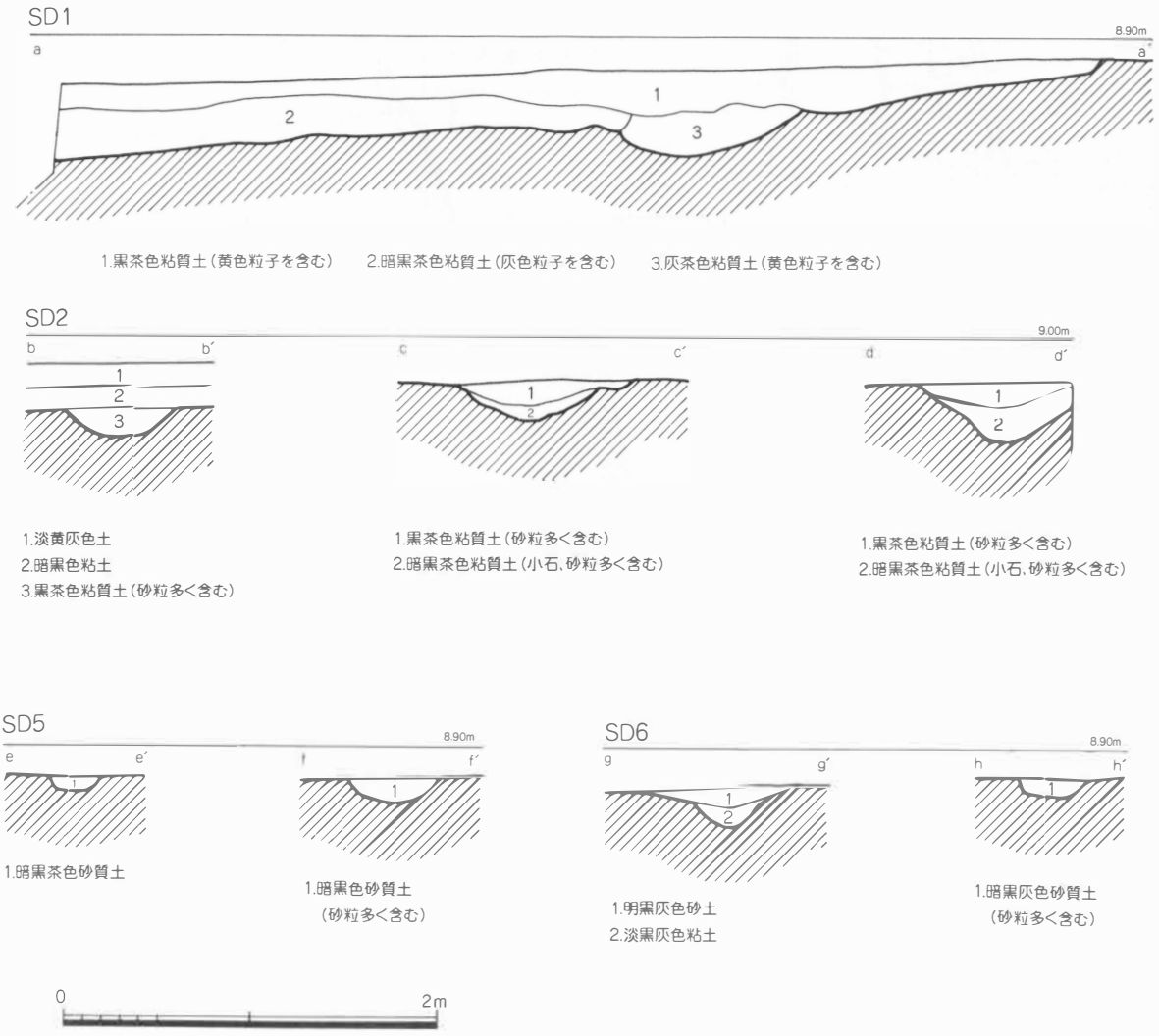


Fig.3　SD1・2・5・6土層断面実測図（1/40）

Fig.4　上北島花畑遺跡遺構全体実測図(1/200)

SD7

調査区の中央部で検出した南北溝で約16.5m分を確認した。溝は著しく削平を受けていたため痕跡を確認したにすぎず、出土遺物は皆無であった。

土壙

SK3

調査区の北西部から検出した隅丸長方形状の土壙で、北端部は調査区外に広がる。幅0.6～0.8m、深さ0.3mを測り、遺構の方位はN—20°—Wである。埋土は暗黒色粘質土を基調とし、出土遺物は土師器（片）を僅かに認めた。

SK8

調査区の北東隅でSD1の溝底から確認した。幅1.34m、深さは0.42mを測り、埋土は灰茶色粘質土を基調とする。出土遺物はない。

SK9

SK8に切られるように検出した楕円形状の土壙で、長軸0.97m、短軸0.65m、深さ0.15～0.38mを測る。隅丸長方形状の土壙で、埋土は淡灰色粘質土を基調とする。出土遺物は皆無であった。

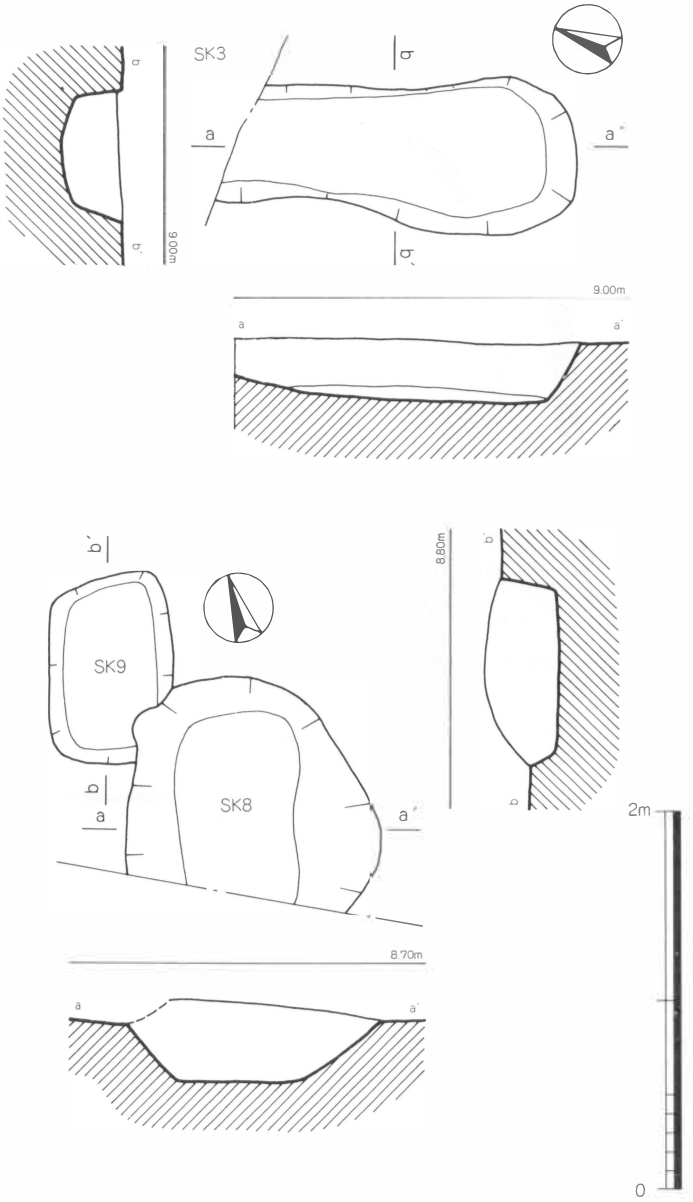


Fig.5　土壙実測図（1/40）

不明遺構

SX4

調査区の西部で検出した溜まり状遺構である。埋土は暗黒色粘土で、深さは0.2m程度を測る。遺物は須恵器（甕）、土師器（片）、青磁（碗）が出土した。

ピット

SP13

調査区の南端で確認したピットで、土師器（坏）が出土した。

(2) 出土遺物

溝

SD1

須恵器

坏（1・2）　共に細片で、口縁部、底部、受部は欠損する。色調は青灰色で胎土は黒色粒子を少量含む。

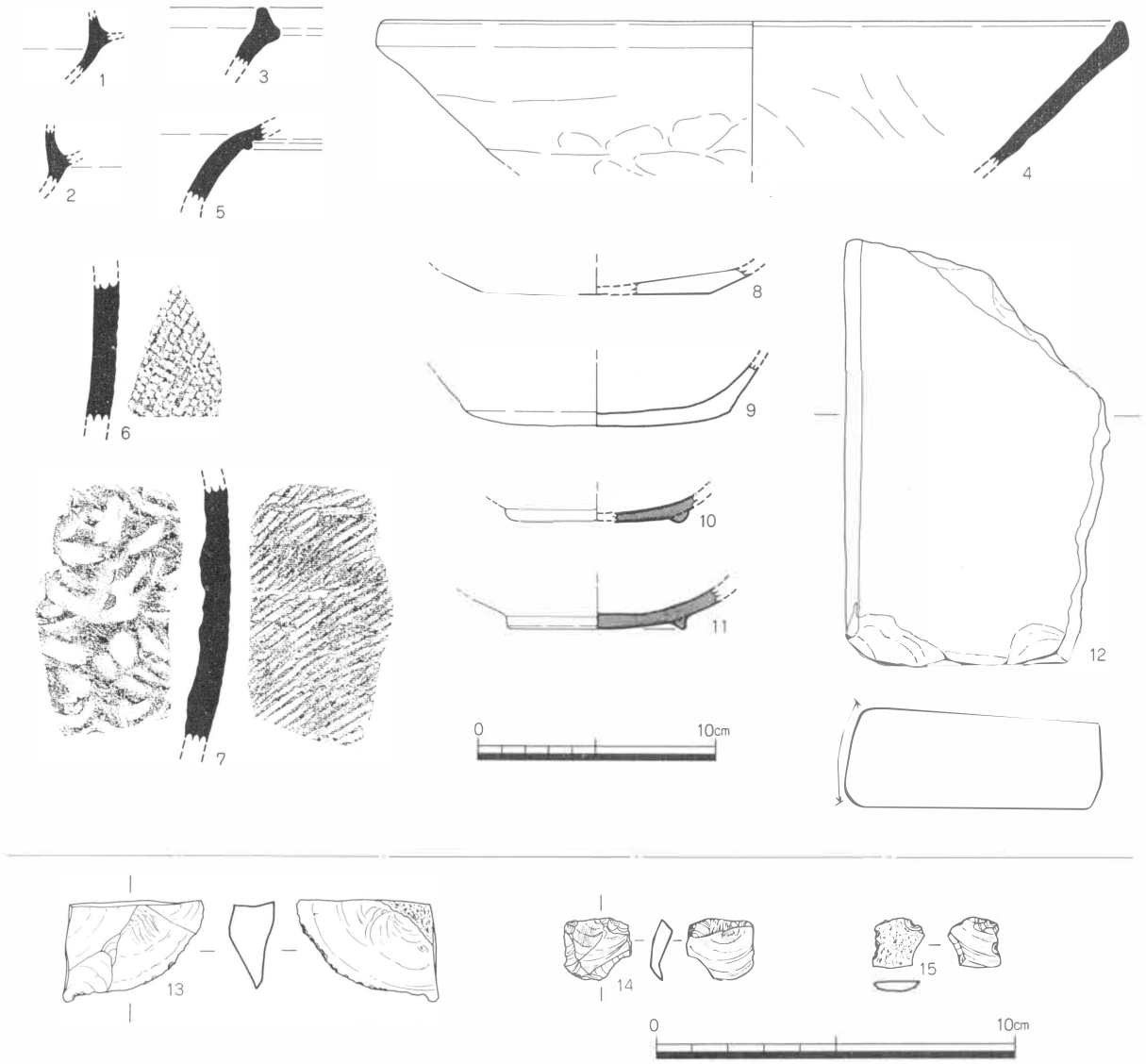


Fig.6　SD1出土遺物実測図（1/2・1/3）

焼成はほぼ良好である。

鉢（3・4）　共に口縁部の細片で東播系鉢と思われる。3は口縁部が玉縁状を呈し、調整は内外面ヨコナデである。色調は外淡青灰色を呈する。4は口径30.7㎝を復原し、口縁部内面はヨコナデ、体部内面はナデ、体部外面はナデの後ヨコナデ調整を施す。色調は淡灰色で胎土に細砂粒及び少量の黒色粒子を含む。

甕（5～7）　5は口縁部の細片で、内面上位・下位、外面はヨコナデ、内面中位はナデ調整を施す。外面には貼付と思われる突帯が施される。6は甕の体部細片で、外面は平行文、内面は同心円文の叩きを施す。7は体部細片で、外面は格子文叩き、内面はナデ調整を施す。

土師器

皿（8・9）　共に底部の細片で底部外面は回転ヘラ切りである。調整は著しく磨耗を受けているため不明で、8は復原底径9.5㎝、9は底径11.2㎝を測る。

瓦器

椀（10・11）　共に底部の細片で磨耗のため調整不明である。10・11の高台径は7.2㎝を復原する。

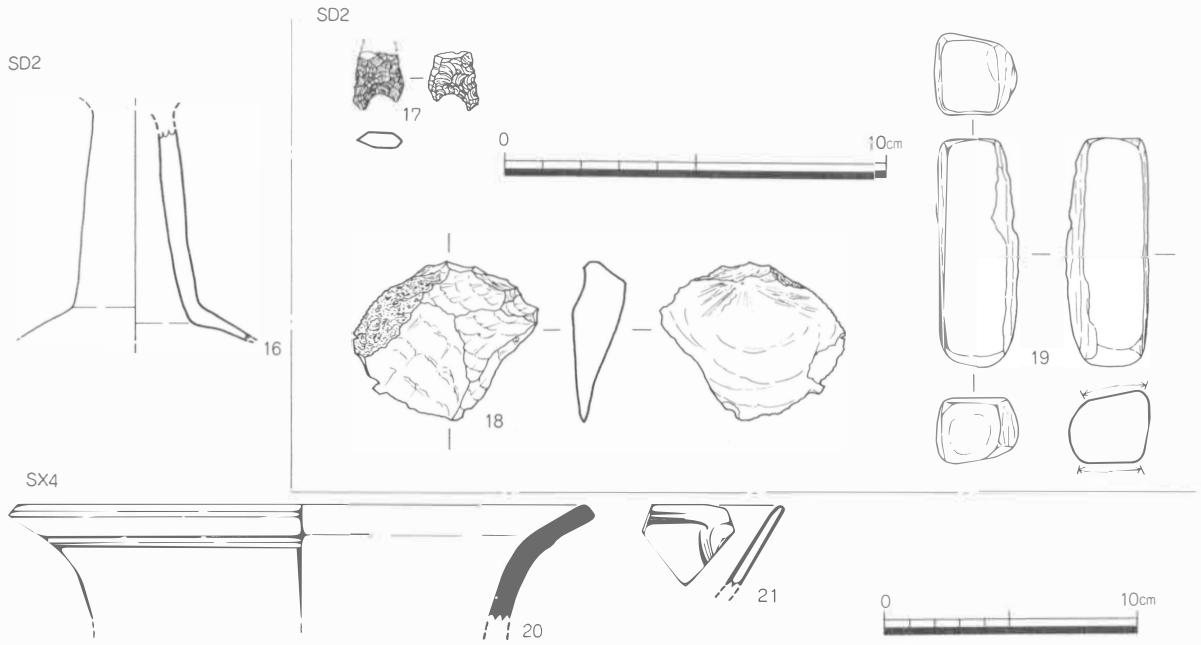


Fig.7　SD2、SX4出土遺物実測図（1/2・1/3）

石製品

砥石（12）　上下部及び片側を欠損する。石材は安山岩製で、側面を砥面とする。

二次加工品（13～15）　13はサヌカイト製で、裏面の一部に自然面を残す。側部の両面に細かい二次加工を施し、刃部を作り出す。14は黒曜石製で表面に二次加工を施す。15は黒曜石製で表面に自然面を残す。表面の側部に二次加工を僅かに認める。

SD2

土師器

高坏（16）　脚部の細片で、調整は著しく磨耗しているため調整は不明である。色調は淡黄茶褐色で、胎土は少量の砂粒を含む。

石製品

石鏃（17）　先端部が欠損した黒曜石製の石鏃である。表裏面の側部に刃部を作り出している。

二次加工品（18）　石材はサヌカイト製で、表裏面の一部に自然面を残す。

砥石（19）　石材は泥岩製で、表裏面、上下面を砥面として使用している。

不明遺構

SX4

須恵器

甕（20）　口縁部の細片で口径23.0cmを復原する。内面上位・下位、外面はヨコナデ、内面中位はナデ調整を施す。外面には貼付と思われる突帯が施される。

青磁

碗（21）　口縁部の細片で、淡灰色の胎土に青緑色の釉を薄く施す。龍泉窯系。

Ⅳ.まとめ

当調査区からは弥生時代から近世における遺構と遺物が認められたが、調査区内は著しく削平を受けていたため若干の遺構と少量の遺物を認めたのみであった。ここでは、検出された主な遺構と遺物について概観したい。

溝

調査区から検出された溝はSD1・2・5・6である。

流路の可能性が考えられるSD1は、先述したとおり調査区の設定上、溝の幅を確認することができなかったが、概ね11m程度の幅を呈する大溝であったことが想定され、溝の堆積状況からは流水を伴っていたことがわかる。埋土中からは弥生土器、須恵器、瓦器、陶磁器、石製品といった時期幅の広い遺物が出土しているが、概ね中世以降に埋没した時期が考えられよう。ところで、SD1の偶然にも当調査区付近の航空写真（Fig.8：昭和28年頃の撮影）を入手することができた。この写真には現在も確認することのできる東西方向の水路（Fig.9）が、蛇行しながら当調査区付近を通過し、更に南方向へ延びていることがわかる。このことから、写真で確認される水路が当調査区から検出されたSD1であったとすると、撮影時においては、水路が存在していたことを示唆するものである。従って、今回確認されたSD1からの出土遺物は中世以前のものが主であるため、埋没過程に関しては慎重な態度で望む必要があると考える。

SD2・5・6は遺構の性格としては区画溝になる可能性がある。ただ、SD2からは土師器（高坏）や石製品（石鏃・砥石・二次加工品）など古代の遺物を確認することができたものの、何れの遺構からも出土遺物量に不安な要素を含んでおり、年代を押さえるまでには至らないものと考える。

土壙

調査区から検出された土壙にはSK3・8・9がある。何れも出土遺物が皆無であったことから時期を特定することは難しい。

その他の遺構

溜まり状遺構と考えられるSX4からは龍泉窯系青磁などが出土しており、概ね中世に相当するものである。この他、同時期の顕著な遺構としてはSP13が考えられ、土師器（坏）が出土している。

今回は調査面積が広い割には遺構の密度が粗く、検出した遺構の多くは著しく削平を受けていたため全体を把握することは難しい結果となった。しかしながら、古代から近世にかけての遺構が存在していることが確認できたことで、今後の調査に繋がっていく所見は得られたものと考えている。

Fig.8　上北島花畑遺跡周辺の航空写真（約1/2,500）

Fig.9　上北島花畑遺跡周辺図（1/2,500）

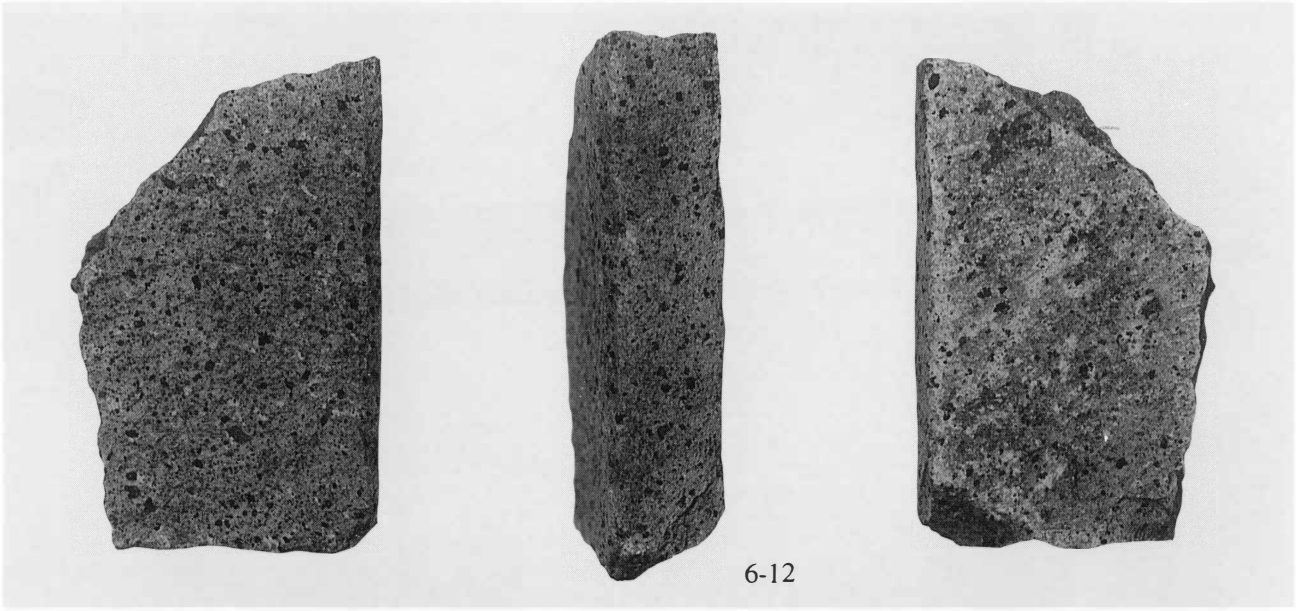
写　真　図　版

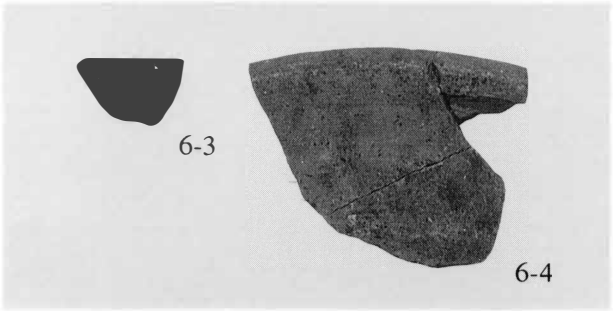
凡　例

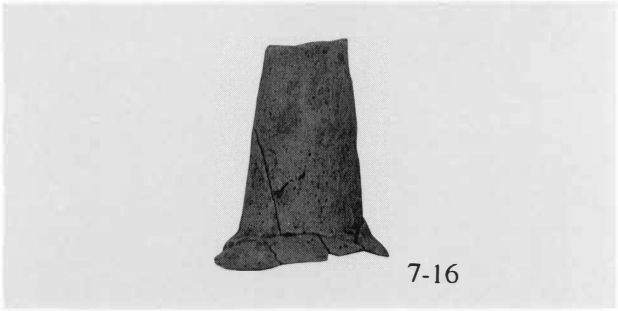
遺物の写真図版の番号は、以下の要領である。

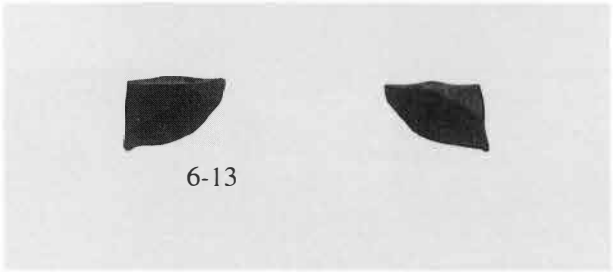
上北島花畑遺跡（第2次調査）調査区南部全景（北から）

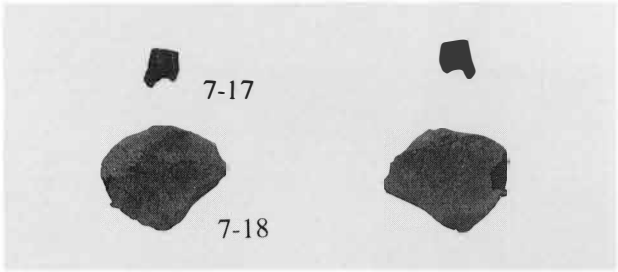
上北島花畑遺跡（第2次調査）調査区北部全景（北から）

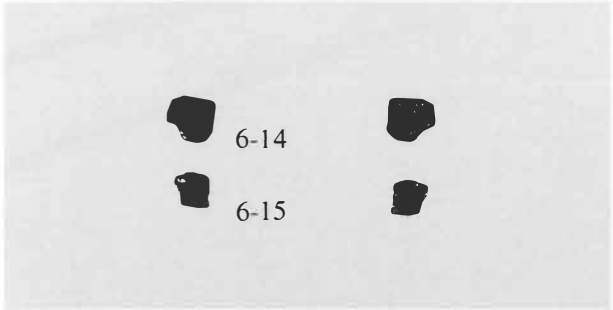


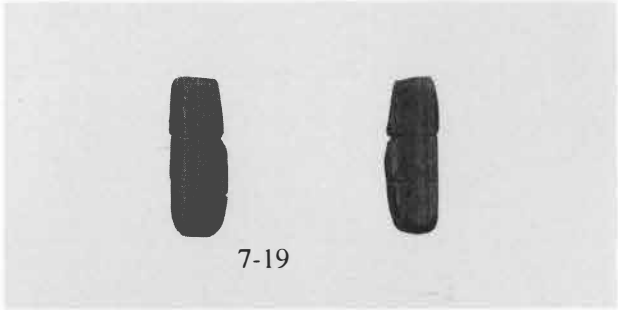


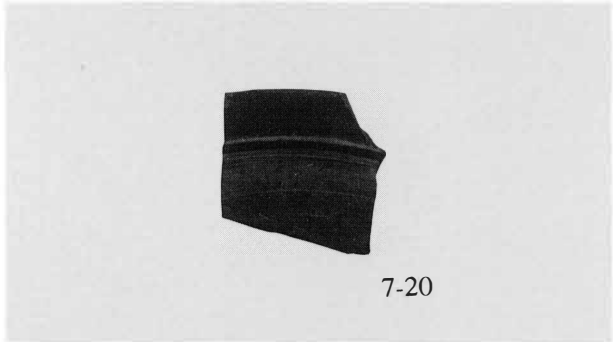


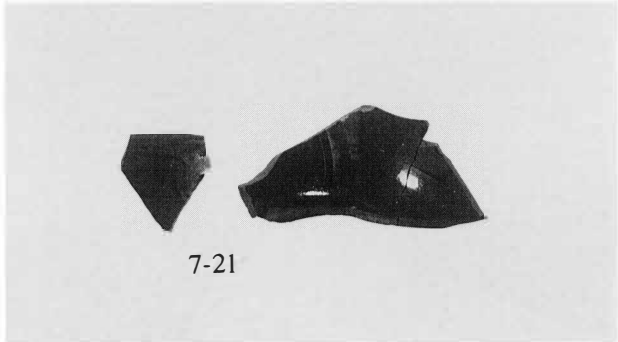












上北島花畑遺跡（第2次調査）出土遺物

上北島花畑遺跡
第2次調査
筑後市文化財調査報告書
第28集
平成12年3月
編集発行　筑後市教育委員会
福岡県筑後市大字山ノ井898
印　刷　山下プリント
福岡県筑後市大字熊野1848の6